

東京納税貯蓄組合総連合会 会長賞

未来への投資

東三鷹学園三鷹市立第六中学校

三年 宮崎 恵花

蛇口をひねれば綺麗なお水が、病気をすれば病院に、インターネットも使えて当たりまえ。それが今の日本だろう。インフラの整った日本に生まれてきて、自分達さえ良ければそれで良いのだろうか。そんなことはない。こうしている今も、本来なら治る病気でも、医療体制が整っておらず、適切な治療を受けられず命を落としている人が沢山いる。開発途上国の多くでは、極度の貧困状態にあり、教育を受けられないまま幼い頃から労働力として搾取されているというのが現実だ。

このような人々を助けるために、政府開発援助ODAという活動があることをご存知だろうか。開発途上国の開発のため、開発途上国または国際機関に対し、資金や技術提供を行う活動のことであり、外務省の一部門である。実績は、アメリカ、ドイツに次ぐ第三位で、平和構築や基本的人権の推進、人道支援等を行っている。私は、この活動資金の一部に、税金が使われているということを、最近知った。他国との交流により、良好な関係を築くことができれば、世界の平和や安全にもつながる。

しかし、日本国内にも沢山の問題がある。そのため、「国内の問題を後回しにして海外にお金をばらまいている」と考える人も少なくはない。果たして本当にそうだろうか。

日本の食料自給率は低く、化石燃料等の資源も乏しい。今の生活は、さまざまな国からの輸入品により支えられている。日本だけで生きていくことは、不可能なのだ。沢山の国に支えられている私達が、他国を支援することは当然であり、支援によって港や輸送路が整備されれば、日本企業が進出しやすくなったり、貿易が盛んになると、日本にとっても良いことが沢山ある。

税金の使い道といえば、社会保障、公共事業というところが大きくあげられるだろう。ただ、それだけでなく、国外でも役立てられていることを知ってもらいたい。ごく一部ではあるが、私達の払う税金が、国外の困っている人々にも役立っていると思うと、税金が重荷のように感じられなくなる。税金は、国内外の様々な問題の解決を望み、日本と海外をつなぐものだ。決して負担のように感じるものではない。国内の社会保障、公共事業等の展開と共に、国外の発展を願う。これはきっと未来の世界への投資だ。